富秋中学校区施設一体型義務教育学校基本計画 概要版

（1）施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の整備

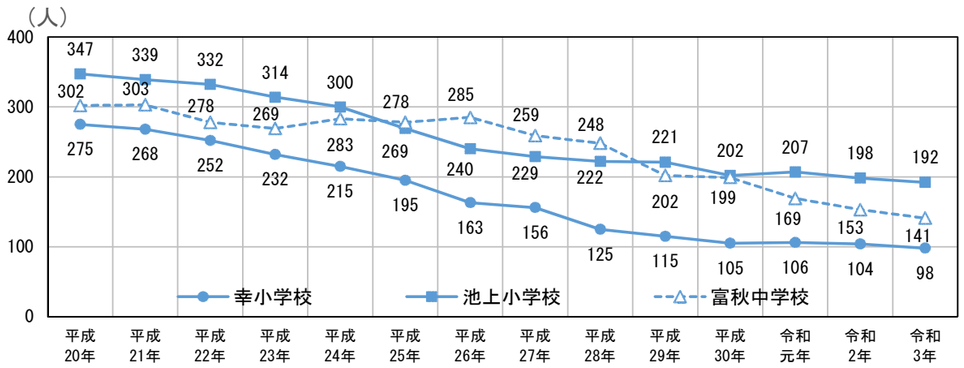
・下図 1 の通り、児童生徒数の減少や建物の老朽化などが課題となっている池上小学校、幸小学校、富秋中学校を統合し、現富秋中学校の敷地に、施設一体型義務教育学校（小中一貫校）を整備します。

・開校時※1 の想定児童生徒数・クラス数として、葛の葉町の就学前児童保護者へのアンケート調査※2 結果を踏まえると、下図 2 の通りとなります。一方、葛の葉町や国道 26 号以西の地区を含めた場合の最大想定数は、下図 3 の通りとなります。※1：令和９年予定、※2：令和２年 10 月実施

・開校時の想定児童生徒数・クラス数の動向を見据え、各学年に普通教室として転用可能な予備教室を配置し、児童生徒の増減に対応できる計画とします。

＜富秋中学校区　平成 20 年～令和 3 年の 13 年間における児童生徒の推移＞

図 1



＜富秋中学校区　想定児童生徒・クラス数（令和９年）＞

図 2

	前期課程						小計	後期課程			小計	計
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年		1 年	2 年	3 年		
児童生徒数(人)	68	78	68	71	63	69	417	68	52	66	186	603
クラス数(室) 中学 40 人学級	2	3	2	3	2	2	14	2	2	2	6	20
クラス数(室) 中学 35 人学級	2	3	2	3	2	2	14	2	2	2	6	20

図 3

	前期課程						小計	後期課程			小計	計
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年		1 年	2 年	3 年		
児童生徒数(人)	95	110	91	95	87	94	572	86	74	95	255	827
クラス数(室) 中学 40 人学級	3	4	3	3	3	3	19	3	2	3	8	27
クラス数(室) 中学 35 人学級	3	4	3	3	3	3	19	3	3	3	9	28

（2）整備コンセプトと整備方針

整備コンセプト

地域と学校が総がかりで子どもを育てる環境のある学校

子どもと大人がミライ・可能性を感じ、成長できる学校

人権、多様性を大切に自分や人を思いやる人材を育む学校

方針 1　安全・安心に学べる学校

■視認性に優れた平面計画　■歩車分離に配慮した配置計画

方針 2　多様な学習を可能にする学校

■フレキシビリティの確保　■多彩で個性豊かな「場所づくり」

方針 3　快適で利便性の高い学校

■自然の採光と通風を活かした快適な施設整備

■利便性と安全性を兼ね備えた施設整備

方針 4　災害に強い学校

■災害時に児童生徒の安全を守る施設整備

■「地域の防災拠点」としての施設整備

方針 5　地域に開かれ、地域の愛着と誇りを感じる学校

■地域利用を促進するゾーニング計画

■学校と地域の交流につながる施設整備

■周辺環境や地域とも調和した良好な環境の整備

方針 6　環境を考えた学校（エコスクール）

■サスティナブルスクール　■五感で感じる環境教育の場となる施設整備

方針 7　からだとこころに優しい学校（ユニバーサルデザイン）

■バリアフリーに配慮した施設整備

■児童生徒にとって快適な生活環境となる施設整備

方針 8　人権教育を継承する学校

■多様な人々が安心して過ごせる施設整備

（3）基本的な教室の考え方

・施設一体型義務教育学校は、前期課程（1～6 年）と後期課程（7～9 年）の児童生徒がひとつの校舎で生活することになります。そのため、学年に応じた学習環境に配慮しつつ、学習形態の多様化に柔軟に対応する施設計画を検討しています。

・基本的な教室は下表の諸室等を整備する予定です。

・新校舎は最大３階建の高さとし、施設規模（床面積）は 11,750 ㎡程度を想定しています。

※1　室名	室数	基本的な考え方（用途）
●普通教室	各学年２クラス	・たてわり活動や異学年交流を意識しつつ、前期課程・後期課程の時間割や学習環境にあわせた教室とする
●普通教室予備室	各学年１クラス	・普通教室予備室を利用した３クラス編成にも対応 ・習熟度別授業やグループ活動に対応
●特別支援教室	７室	・身体・知的障がいのある生徒に対応した授業を行うために必要な設備を整備する ・孤立せず、みんなと同じ学校生活ができる配置とする
●理科室	２室 （準備室２室）	・前期、後期課程のカリキュラムにあわせた設備を整備する
●音楽室	２室 （準備室１～２室）	・楽器の演奏や歌唱等、授業スタイルにあわせた仕様とする
●美術室	１室 （準備室１室）	・図画工作や展示等、授業スタイルにあわせた仕様とする
●技術室	１室 （準備室１室）	・木工や金工等、授業スタイルにあわせた仕様とする
●家庭科室	２室 （準備室１～２室）	・調理実習や手芸等、授業スタイルにあわせた仕様とする
●メディアセンター（図書室）	１室 （準備室１室）	・校区の活動「ブックフェスタ」などに鑑み、時間帯を設定した地域開放を検討する ・地域開放を考慮し、誰もが使いやすく、身近に感じられるよう工夫する
●多目的室	一般的な多目的室 ２室 多目的ホール １室	・ランチルームとしても使用することができ、異学年交流やたてわり活動にも対応できるスペースとする ・文化活動や表現活動の場として、利用人数等を考慮し適切な規模のスペースを確保する ・学校活動だけでなく、放課後や地域での活動を整理・確認し、配置及び仕様を検討する
●留守家庭児童会	４室	・留守家庭児童会の専用室
●地域活動室 兼　PTA 室	１室	・学校に関わる地域活動の会議や準備を行う教室
●職員室	１室	・前期、後期課程で共通 ・学年間で教員同士の連絡がとりあえるように配慮した家具レイアウトが必要 ・基本的な設備は通常の学校と同程度の仕様とする
●保健室	２室	・前期、後期課程共通で２室程度 ・生徒の健康安全管理などの基本的なサポートができる設備を整備する ・感染症の対応や健康診断の実施など、臨時的に分けて使えるよう配慮する
●相談室	４室程度	・学校生活のさまざまな相談に対応する教室 ・進路指導のための資料等を保管する ・各階に配置することが望ましい
●体育館	１室	・前期、後期課程で共通 ・式典や文化活動、表現活動等、全校生徒が集まるような行事に対応した仕様とする。 ・バスケットボールコート　２面程度の規模
●グラウンド	—	・前期、後期課程で共通のため、児童生徒の安全に配慮して整備する ・200mトラック、直線 100m ・野球 ・サッカーコート
●サブグラウンド	—	・前期、後期課程で共通のため、児童生徒の安全に配慮して整備する
●多目的グラウンド	—	・フットサルやテニスなど多目的に使用できるよう整備

※１　室名他、表の内容は決定したものではありません。（施設の魅力向上や機能充実等のため変更する場合があります）

（4）地域連携機能の考え方

・「地域とともにある学校」をめざし、地域と連携しながら様々な活動を行っていくことを想定します。

・近隣に整備予定の（仮称）多世代交流拠点施設など校区内の他の公共施設と連携することで、人権学習をはじめ、キャリア教育や地域学習等、様々な教育活動の充実を図っていきます。

①メディアセンター（図書室）の地域開放

・メディアセンターの地域開放では、学校運営上の図書の授業がスムーズに行えることを前提に地域の誰もが気軽に利用できるよう、施設管理・運営・活用について多角的な配慮が必要です。

・地域への図書の貸出や、よみきかせイベント等が行えるよう、検討していきます。

・市営図書館である「にじのとしょかん」で管理されていた児童書や絵本、紙芝居については、施設一体型義務教育学校のメディアセンターにて引継ぎます。

・具体的な地域開放の時間設定や、利用上のルール、セキュリティの考え方は、教職員とも相談しながら、新校舎の設計と並行して、引き続き検討を行います。

②敷地内広場の地域開放

・本計画では積極的に地域に開かれ、地域とともにある学校を整備するために、地域にも開放できる敷地内広場を検討しています。

・学校ゾーンとはシンプルで明快に区分し、開放利用の利便性と管理の容易さを両立させる必要があります。

・地域のみんなに親しみやすく、かつ学校活動の様子が伝わるような場所をめざし、引き続き検討していきます。

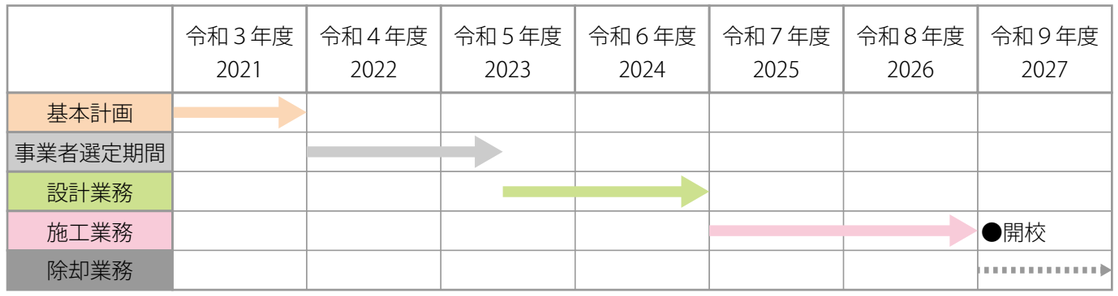
（5）開校までの想定スケジュール

・令和９年度の開校を目標に、下記に示すようなスケジュールを想定しています。

・教職員や地域の方とのワークショップ等の意見聴取を踏まえ、整備事業を推進します。

※現時点で想定される最短のものであり、状況等により変更になる可能性があります。

※よりよい建替事業とするために、民間事業者の提案を公募する方式（官民連携事業）の活用を検討しています。



（6）工事計画

・下図のとおり、現在の富秋中学校の敷地に、新しく施設一体型義務教育学校（小中一貫校）を整備します。

・新校舎の配置については、敷地のそれぞれ東西南北に配置する案が考えられますが、各案を比較した結果、下記の評価理由により、南側配置案にて検討を進めることとします。

①現況に対して、周辺環境に与える影響度合いが比較的低い

②十分な学習環境が整備できる可能性が大きい

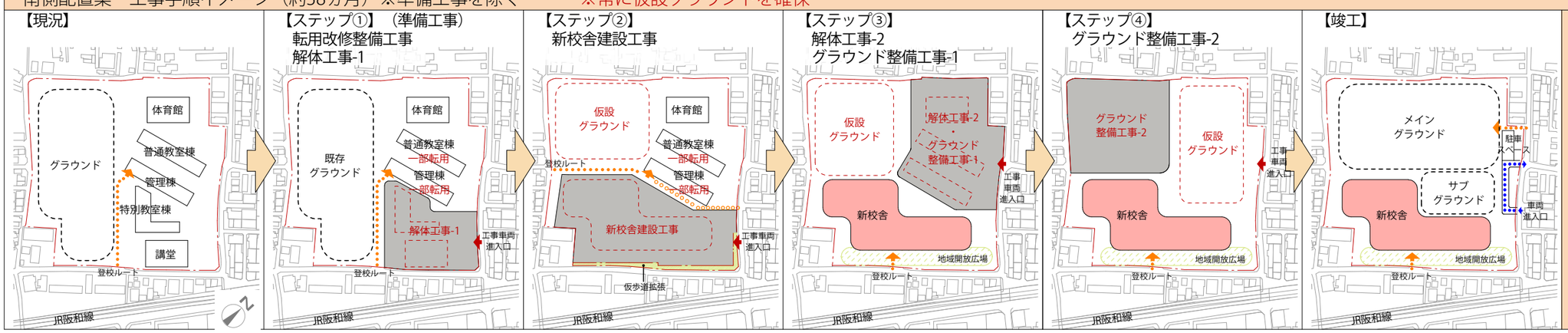
③工期・コストとも、十分に抑えられる可能性がある

④地域開放について、最も多様な可能性と発展性が期待できる

・安全に授業を継続する、居ながらの工事となり、既存校舎の転用改修整備や解体が伴うため、新校舎建設のための工事手順は下図の通り、４ステップにわけて実施します。

＜工事手順イメージ＞

南側配置案　工事手順イメージ（約38ヵ月）※準備工事を除く　　※常に仮設グラウンドを確保



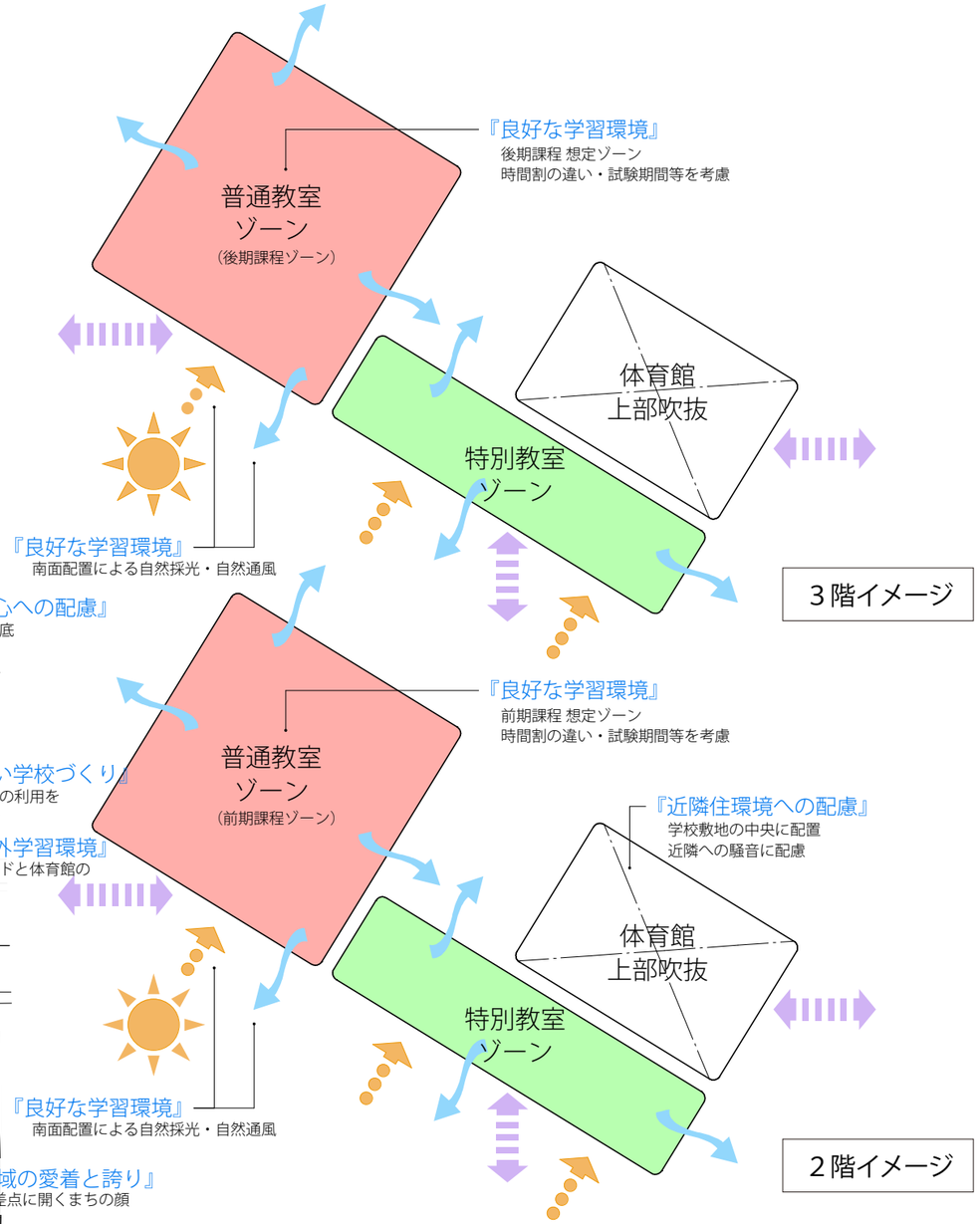
■メリット
・工事期間を短縮できる。
・常にグラウンドを確保可能。

■デメリット
・部分的に、既存校舎の事前転用改修工事（準備工事）が必要。

（7）配置計画（モデル案）

※この配置計画は、１つのイメージです。

※具体的な検討は、今回の基本計画を元に、民間事業者からの提案を受けて決定する予定です。



凡例

- 普通教室(CR)
- 管理諸室 等
- 体育館
- 特別教室 等
- 地域開放
- 給食室

延床面積：11,750㎡ 程度

- 歩行者動線（児童生徒動線）
- 車両動線